

## 議 事 録

1. 会議の名称 池田市発達支援システム検討委員会
2. 開催日時 平成26年3月17日(月)  
午前10時～午後12時
3. 開催場所 府市合同庁舎5階大会議室
4. 出席者 《委員》  
※委員長：◎ 片山委員  
副委員長：○ 小川委員  
永井委員、泉野委員、国領委員、宮原委員、加藤委員、  
乾委員、高光委員、竹内委員  
<事務局職員>  
早川副市長、藤井部長、  
(発達支援課)北浦次長、石崎副主幹、森田  
<大阪大学>  
村田
5. 議 題 (1) 委員長・副委員長の選出について  
(2) いけだつながりシート **Ikeda\_s** (イケダス) の  
運用について  
(3) ゲイズ・ファインダーの運用について  
(4) 平成26年度 発達支援関係予算概要  
(5) 各機関よりご意見
6. 議事経過 別紙
7. 公開・非公開の別 公開  
※非公開の理由
8. 傍聴者数 1名
9. 問い合わせ先 池田市 子ども・健康部 発達支援課  
(072) 752-1111 内線190  
(072) 754-6201 (ダイヤルイン)  
E-mail h-shien@city.ikeda.osaka.jp

様式第2号

議事経過

発言者	発言の要旨
	<p>○開会 ○早川副市長挨拶 ○委員紹介 ○事務局紹介</p>
事務局	<p>案件（1）委員長・副委員長の選出について 委員長に片山委員、副委員長に小川委員を選出。</p>
事務局	<p>案件（2）いけだつながりシート<sup>イケダス</sup>Ikeda_sの運用について いけだつながりシートの運用状況について説明</p>
委員	<p>くすのき学園では、まだ利用はないが、生育歴からずっとわかる形になっているので、活用が早くスムーズにできる体制ができればと願う。</p>
委員	<p>やまばと学園では、今年度から活用しているが、子どもが大きくなってくると、量が増え、コピーや保管が大変かもしれないと感じる。</p>
委員長	<p>全部埋めなくても、書けるところから書いていく。細かいものがこれまでなかったもので、各機関で再度一から聞き取ってしまっていた。それが問題でつながりが悪かったということで、つながりシートができた。一旦書き込むと大変有用なものになる。</p>
委員	<p>年齢が高い保護者にとっては、窓口までとりに行くことが難しい、振り返って書くことが大変な作業でなかなか活用できていないという状況もあるようだ。</p>
委員	<p>量が多く、取り掛かる意欲がないという声がある。集まって皆で書く時間があれば、相談しながら書けるのではないかという話が出ている。今後積み重ねていくことで、活用の仕方や効果が出てくると思う。</p>
事務局	<p>団体や機関で集まれる機会に発達支援課職員が出向き、お手伝いさせていただきたい。</p>

様式第 2 号

<p>委員長</p>	<p>周知の問題について、市として積極的に何かしていく方向や具体策はあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>支援が必要な方を中心に周知しているが、母子手帳の延長版をコンセプトにしているので、チラシを活用する等、今後はもっと広く、皆さんにもっていただけるよう PR を行っていきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>入口は、障がいをお持ちであったり、困り感をもっていらっしゃったりする方への配布であっても、最終的に皆さんが持っていただけるような方法に誘導していただけることを市として考えていただきたい。母子手帳の延長版として考えられて作られているので、産婦人科や小児科、子どもが集まる場所に置いて知ってもらう。小さい時に書いておくと、後から役に立つということが理解していただけると思う。市でも記入の際にお手伝いしていただき、大きくなった子どもでも、シートが役に立つと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p><b>案件（3）ゲイズ・ファインダーの運用について</b> ゲイズ・ファインダーについて説明</p>
<p>委員長</p>	<p>何をどういう風に興味を持って見ているかという脳の特徴を、視点を通してみることができる機械である。保護者に説明する際に、言葉だけではなく、見ていた軌跡と一緒に確認しながら説明できるので、客観的なツールとなり、保護者も納得しやすく、説明する側も説明しやすい。特に発達障がいの可能性のある子どもの発達特性を見つける一つの手立てになるのではないかと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>1 歳半健診で活用されるのか。小学校に上がって発達障がいではないかと不安に思う方もいる。親の気づきがない場合もあり、何歳まで利用できるものか。</p>
<p>事務局</p>	<p>1 歳半健診の項目として実施するのではなく、1 歳半健診のために来られる機会を捉えて、研究協力いただけないかとお声掛けをし、ご協力いただける方には趣旨を含めて説明する。 早期気づき用に画面は作られているが、大人が使っても特徴を十分に捉えられる。 あくまでも補助的なものなので、この結果をもって発達障がいである</p>

様式第 2 号

<p>委員長</p>	<p>とは言えない、診断は医師に限られる。ご理解いただいた上で、療育の効果測定など、幅広く活用を考えたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>医師でもゲイズ・ファインダーを知らない人がまだ多い。大阪府では、平成 25 年度に府立精神医療センター、府立母子保健総合医療センターに 1 台ずつ設置された。</p>
<p>事務局</p>	<p><b>案件（４）平成 26 年度 発達支援関係予算概要</b> 平成 26 年度の発達支援課の主な事業について説明</p>
<p>委員</p>	<p>平成 25 年度、放課後デイサービス事業所が 3 つ開所したということで、利用状況を知りたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>やまばと学園でも実施しているが、民間では 3 施設できた。利用者数は、5 月開所のさつきハウスは 12 人、11 月開所のハッピースマイルは 11 人、3 月開所のゴールデンハウスは 0 人。近隣市にある施設にも行かれている。通所支援の全体人数は約 110 人。保護者によってニーズが異なるので、ニーズに合うところに通われている。</p>
<p>委員長</p>	<p>実際の児童数に比較して、施設数は少ないので、民間が参入しやすい形を考えていただきたい。一つは、専門性の担保。専門性が高いと人は集まってくる。もう一つは、場所。市内にある余剰の建物を調査いただき、お知らせできるとよい。</p>
<p>事務局</p>	<p>施設の確保を把握するのは困難と思われる。市の立場としては、制度を通したサポートになる。給付措置などの情報提供した上で、支援していきたい。また、現在行っている共同利用施設の見直しについて、統廃合をしていく中で空き会館が出たら、民間参入を促すことも視野に入れて進めたい。</p>
<p>委員</p>	<p><b>案件（５）各機関よりご意見</b> 発達に課題のある子どもだけでなく、全ての子どもが <sup>イクエダス</sup>Ikeda_sl により、先生方と保護者が共有すれば、授業が変わっていくし、ユニバーサルデザインにつながっていく。 支援学級の担任を結ぶ、リーディングチームを作る。発達支援課と連携して、トータルに子どもを見て、つなげいくシステムを構築したい。</p>

様式第 2 号

委員	ハローワークでIkeda_s <sup>イケダス</sup> を持ってこられたことはまだないが、この取り組みが定着し、窓口に持ってくる機会が増えることが望ましい。就労支援者が付いていると、就職率や定着率が高い。就職活動については支援をつけられるような誘導も必要と感じる。
委員長	将来的にIkeda_s <sup>イケダス</sup> の電子化はあり得るか。
事務局	セキュリティの問題がある。費用面も含めて検討はしていく。フォーマットを電子媒体で提供にすることについて検討したい。
委員長	池田市における発達のフォロー体制について、次にどういう流れがあるのかチャートのように見える形で、俯瞰できるようなものを作ってもらいたい。
事務局	分かりやすく市民に情報を提供したいので、鋭意検討する。
委員	生活困窮者自立支援法が平成 27 年度から始まる。若者の就労につながる、連携をとれるような支援がまだない。児童から社会性を育て、支援がうまくいって社会に出るお手伝いをしてもらいたい。 障がい福祉計画見直しにあたり、発達障がいも含めて数値目標を作ってほしい。
事務局	障がい福祉課とも計画の見直しにあたり連携する。庁内に就労部署もあるので、連携をとれる形づくりが必要と考えている。
委員	高等部 3 年間に携わる方、例えば支援学校から本会議に出席してもらってはどうか。
事務局	委員の構成について、委員会の定数等も考えたうえで、前向きに検討したい。